

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 3月 日

事業所名 放課後等デイサービス キララ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4				・学年が上がっていくにつれて場所等には検討していく。
	②	職員の配置数は適切である	3	1			
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		3			・回答なし1 ・階段が急なところがある為、昇降時にはスタッフがつくよう適宜対応していく。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	1			・今後もスタッフに対してPDCAサイクルを意識した支援を行っていきたい。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			・行った内容を元にスタッフにも伝え共有している。	・保護者の意向等をどのようにして現場に落とし込むか職員全体で共有し、その意見を反映出来るようにしていく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		・ホームページを新規開設したので見やすいように改善している。	・玄関の近くに掲示してさらに見やすく提示していきたい。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			3		・回答なし1 ・第三者評価は現在行っていない。今後行った際には公表いたします。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				・定期的に研修が行われる。今後も外部研修は積極的に取り組んでいく。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4				・今後もニーズや課題については、変わっていくのでスタッフ間でも共有し行っていききたい。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4				・療育プログラムの中で今後も支援を通して図っていききたい。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・長期休暇では事業所独自のプログラムを行っている。	・長期休暇などを利用し、利用者のニーズに寄り添った活動を考えていききたい。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		1		・常に行動がパターン化しないようにプログラムを立案している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4				
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			・子どもの状態に応じて対応している。	・個別対応だけでなく集団と一緒に出来るように対応していきたい。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	2	1	1	・引継ぎノートを作成し、特記事項を文章化しいつでも見れる状態を作っている。	・支援前は難しいことがあるので、支援後や翌日にも打ち合わせできるようにしていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	3		・上記同様	・送迎に出てしまい難しいこともあるため、翌日に行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	3		1		・半年に一回必ずスタッフ間で共有し、見直しを行い、支援に反映できるように理解を深め、支援を行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っている	3	1			
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	4				
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡）を適切に行っている	4			・送迎の際など、こどもの状態等について伺ったりし、コミュニケーションをとり、対応している。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			4		・医療的ケアが必要な子どもの受入は行っていない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	3	1			・同じ法人内の児童発達支援事業所から情報を共有し、支援方針等確認しながら、落とし込み支援に取り込んでいく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	4				・今後も行っていく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2	1			・回答なし1 ・今後も研修等には積極的に参加していきたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	1		3		・放デイの活動内容上、障害のない子ども達との交流機会を持つことは難しい。今後長期休校日等において機会があれば検討する。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	2		2		・児発管と管理者のみではなく、今後は支援員の参加も促す。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	3		1		・今後も保護者とのコミュニケーションは積極的に行い、こどもの課題解決に向けて行っていきたい。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	1	3			・保護者へ向けた勉強会の機会を企画し、行っていこうと思う。
保護者への説明	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	4				・年度が変わるときには説明をしている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4				・何か相談があった際には、その都度対応していく。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	1	2	1		・保護者同士で連携が取れるような機会を今後も作っていく。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応している	4				・苦情対応には虐待防止研修を通して理解、対応できるように努めていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
明 責 任 等	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4				・毎月のお便りを利用して情報を発信できるように努めている。
	③5	個人情報に十分注意している	4				・名前の載っている書類等は必ずシュレッダーで破棄している。
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4				
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	3		・放デイにおいて招待できる行事を行っていない。今後行う予定もないが、地域の方とは日々コミュニケーションを取るよう心掛けている。
非 常 時 等 の 対 応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4				・いつでも手に取り見れる場所へ掲示し、変更があった際には周知している。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4				・定期的に避難訓練を実施し、その他物品の見直しもしている。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				・年2回、虐待防止研修を行っている。
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1			・スタッフに対しても、研修の際にはどのような場面で身体拘束にあたるのか等、自ら説明できるように支援に臨んでいる。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4				・ご家庭でのかかりつけ医の情報を基に対応している。
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2		2		・ヒヤリハットについては、理解が深められるように今後も継続して取り組んでいく。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。